



紹介元 あたほ環境機構(株) 古田周

会社名	(株)日興	ホームページ	http://www.nikko-paint.co.jp/
KES.NO.	KES2-HI-0070	連絡先	代表取締役 社長 中山泰志 住所:〒 317-0076 茨城県日立市会瀬町4-1-43
登録範囲	塗料・化成品等の販売		

ホームページ



環境への取り組み

遮断熱塗料 JIS化されました!

遮断熱塗料JIS化!! 高日射反射塗料へ

遮断熱塗料が平成20年9月20日に日本工業規格JIS K5602 (塗膜の日射反射率の求め方)で制定公示され、遮断塗料の反射評価基準が一元化され、さまざまな試験を経て今年、ようやく高日射反射塗料JIS K5675としていよいよ塗料市場に登場しました。JIS化以前は遮熱と表示されているだけで、曖昧な機能でも、遮断塗料として流通して参りました。そのために遮断塗料と言っても効果はさまざまで、どのメーカーのどんな商品が良いのかわかりませんでした。JIS認定により、そんな不安は解消されます。色ごとに日射反射率を表示し色と反射率の関係も解り易くなり、下記に示します通り、樹脂の種類により等級を設けニーズにあった選択も可能になります。

(等級)

- 1級: 促進耐候性照射時間2,500時間(ふっ素樹脂塗料相当)。光沢保持率80%以上、屋外暴露(2年間)による光沢保持率60%以上。
- 2級: 促進耐候性照射時間1,200時間(シリコンアクリル樹脂塗料相当)。光沢保持率80%以上、屋外暴露(2年間)による光沢保持率40%以上。
- 3級: 促進耐候性照射時間600時間(ウレタン樹脂塗料相当)。光沢保持率70%以上、屋外暴露(2年間)による光沢保持率30%以上。
- LG級: 促進耐候性照射時間600時間以上。

またいずれの等級においても、屋外暴露による近赤外線長域日射反射率保持率は平均80%以上であることが求められる。なお、塗料の樹脂系はあくまでも目安で、促進耐候性試験の性能によって定められる。

促進耐候性試験とは、促進耐候性試験で行われる太陽光に近い人工光源を照射して塗膜の劣化度を測定する時間の基準で、照射時間が長く光沢の低下しないものが耐候性が良いとされています。

耐候性は...
屋外で使用する際の耐久性

環境宣言

基本理念

株式会社日興は、地球環境の保全が人類共通の最重要課題のひとつであることを認識し、全組織を挙げて環境負荷の低減に努力します。

方針

株式会社日興は塗料、化成品等の販売に係るすべての活動、製品及びサービスの環境影響を低減するために、次の方針に基づき環境マネジメント活動を推進して地球環境との調和を目指します。

1. 当社の活動、製品及びサービスに係る環境影響を常に認識し、環境汚染の予防を推進するとともに、環境マネジメント活動の継続的改善を図ります。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係る環境関連の法的及びその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスに関わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 商品の販売促進活動① 建築外装塗料関連商品
 - (2) 商品の販売促進活動② 工業用塗料関連商品
 - (3) 商品の販売促進活動③ 自動車補修塗料関連商品
 - (4) 商品の販売促進活動④ 店舗現金販売関連商品
 - (5) 事業所周辺の清掃等啓発活動
4. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践できるように、この環境宣言を全従業員に周知するとともに一般の人々が入手できるようにします。
5. 地域の環境改善活動に積極的に参画します。

上記の方針達成のために、目標を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進します。

制定日 2006年3月31日
改訂 2013年4月12日

株式会社 日興
代表取締役社長 中山泰志